

10 マッチング（組み合わせ）

譲渡希望者と子猫をうまく組み合わせ、双方が幸せになれるペアを作るのがマッチングです。譲渡希望者の希望や飼育環境と、譲渡される子猫の性格・状態などがうまく合致しなければ、譲渡後に子猫がまた施設へ戻ってくる等という不幸な結果を招くこともあります。

譲渡希望者の希望が一匹に集中したような場合、抽選は公平な方法ですが、譲渡される子猫のその後を考えると、できるだけマッチングを重視した譲渡が理想です。

マッチングを成功させるには

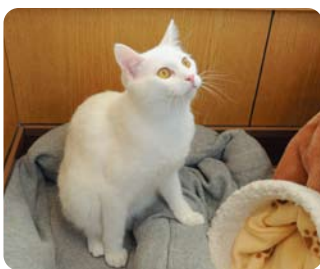
1

譲渡希望者の生活環境や、欲しい猫の希望をあらかじめ、こまかく聞いておきましょう（申し込み時の面接などで聞き取りをすればいいでしょう）。



2

子猫の性格や、状態（健康面はもちろん、トイレができているかなど）を把握しておきましょう。



3

譲渡会で、実際に子猫を見てもらいながら、希望者に適した子猫を薦めるよう、上手にアドバイスしましょう。



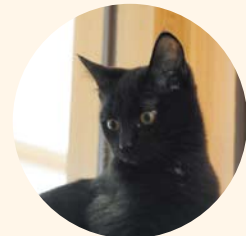
Column

猫好きには、こだわりがある

猫を飼いたい人は、猫の容姿に関するこだわりが強い場合が多いようです。たとえば、代々キジトラを飼っていたので、次も絶対キジトラがいい、しっぽが曲がっているのがいい、足袋をはいている（足先だけが白い）のがいい、など、猫の容姿の好みは千差万別。また、地域によっては、黒猫は縁起がいいとして望まれる場合（あるいはその真逆）もあります。

犬の場合は、性格も重視する希望者が多いのに比べて、猫を希望する人はあまり性格にこだわらず、シャイで手間がかかると説明しても黒猫がいい、という場合もあります。そうした要望もうまくとりこみ、猫の譲渡を推進するために、以下のような工夫も考えられます。

- ・猫を欲しいという人にあらかじめ細かい希望を聞いておき、希望する容姿の猫が収容されたら連絡する。
- ・譲渡会には、さまざまな容姿の猫をそろえておく（譲渡用の子猫の選択をする場合、同じような容姿の子猫ばかりにならないように、という基準で行っている自治体もあります）。



マッチングの例

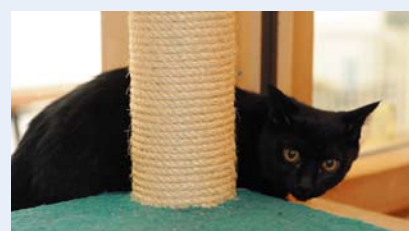
■ 活発な猫の場合

家族が多く、猫に時間を割き、かまってあげられる家庭向き。老人だけの静かな家庭には不向きでしょう。遊びにかまってやれない家庭だと、エネルギーの発散不足によって、人への甘噛みや遊びでのひっかきがエスカレートする可能性もあります。猫のいたずらや室内での落ち着きのなさ（走り回る等）を受け入れられる人・環境であるかどうかには注意しましょう。また、このタイプの猫は、一匹よりも月齢の同じ位の猫（兄弟等）と一緒に譲渡できれば、猫同士でかなりエネルギーの発散ができ、一般家庭では暮らしやすくなるでしょう。



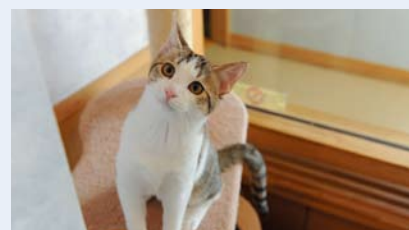
■ シャイな猫の場合

子供のいない、大人だけの静かな家庭向き。留守がちでも大丈夫ですが、ゆっくりと根気強く、猫が慣れるまで穏やかに接してくれる人がいいでしょう。以前に猫と暮らした経験が豊富な方や、同じようにシャイな猫と暮らした経験のある人ならよりよいでしょう。また、慣らすのに時間がかかりそうであれば、猫の飼養経験が豊富な民間団体等へ一時的に譲渡し、適切なケアをしてもらいながら、その後の譲渡を検討してもいいでしょう。



■ ノーマルな猫の場合

一般的に、特に不向きな家庭というのはありません。ただし、猫は新しい環境になれるのが苦手な動物です。施設では人に慣れているようでも、譲渡先ではなかなか慣れてくれない、という場合もあるでしょう。無理強いせずに、ゆっくりと様子を見守ってくれるようにアドバイスするのを忘れずに。



■ 猫を既に飼っている家庭には

まず、既に飼われている猫（先住猫）に不妊去勢手術が施されているかを証明書などで確認。その上で先住猫の性格を聞きましょう。先住猫がシャイ（人に対してではなく猫に対して）で、社会化期に他の猫との接触が少なかったようなら、譲渡を見合わせた方がよいかもしれません。先住猫が受け入れてくれない可能性が高いのです。どうしても、という場合にはトライアル期間を設けて（一週間程度）関係をみるのも一つの手でしょう。



■ 二匹一緒に譲渡をお勧めしたいのは

特に一人暮らしや、夫婦共働きなどの留守番時間が長い家庭には、相性の良い二匹を一緒に譲渡するのがおすすめです。子猫一匹だけでの長時間の留守番は、エネルギーの発散不足によるいたずらや人へのじゃれつき、過剰な興奮などの原因になるだけでなく、運動不足や発育に影響を与えることもあります。二匹一緒に譲渡なら、そうしたリスクを避けられます。ただし、複数飼育が可能な家庭かどうかの確認と、異性ペアの場合は早期の不妊去勢手術が必要です。

